

宿泊税を活用した今後の 観光振興施策について



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸

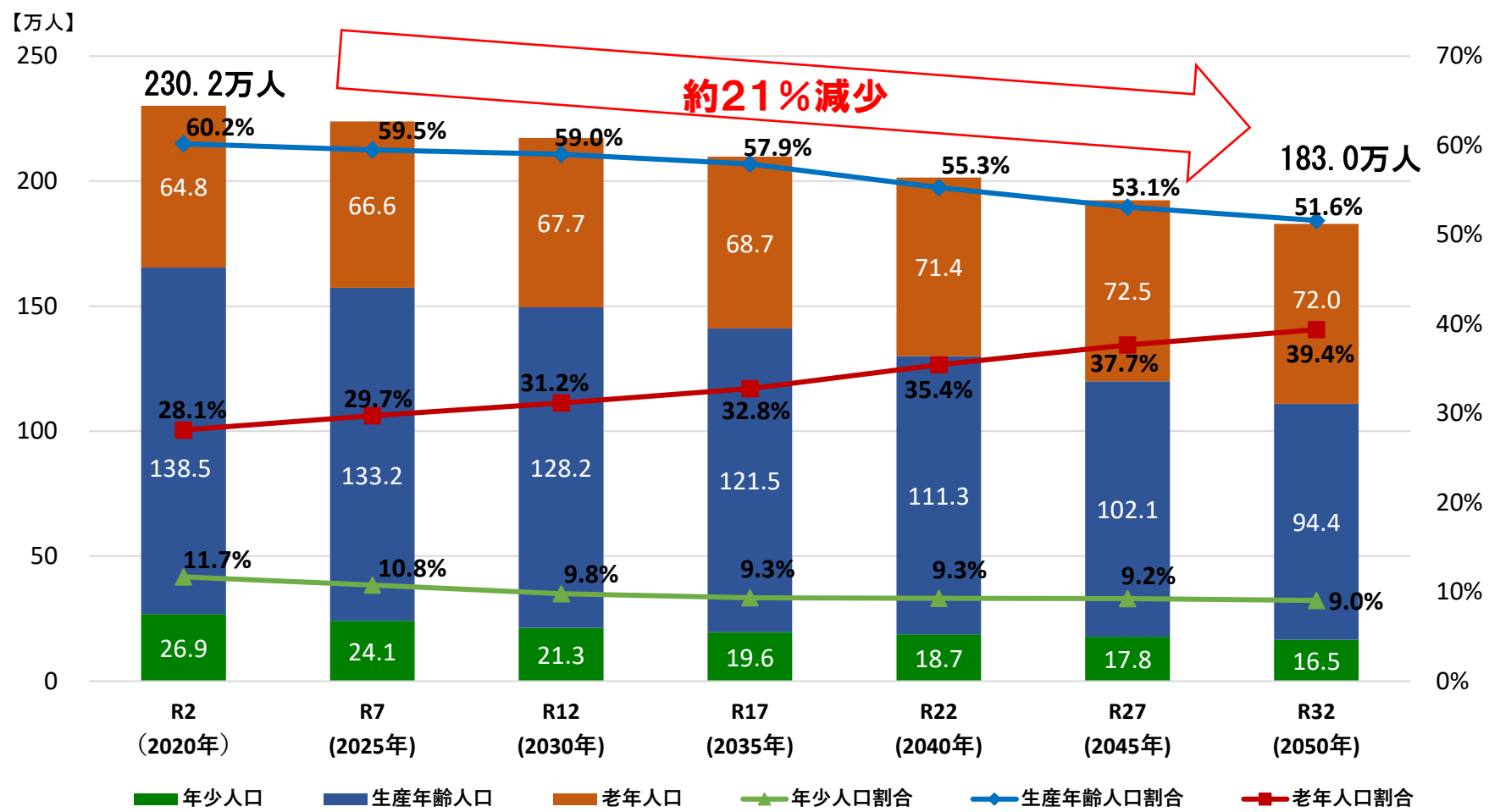
1. 観光を取り巻く現状と課題 ①人口減少

ポイント
①

○国立社会保障・人口問題研究所の推計…2050年の宮城県の人口＝約183万になる見込み

○生産年齢人口(15～64歳)及び年少人口(14歳以下)は、今後さらに減少

○老年人口(65歳以上)は増加し、2050年の高齢化率は39.4%になる見込み



出典：日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

⇒県内宿泊者のうち、県内在住者は全体の約2割程度。人口減少に比例して、県内在住の宿泊者は確実に減少する見込みであり、新たな顧客獲得が必要です。

1. 観光を取り巻く現状と課題 ①人口減少

変更
(R6年確定値)

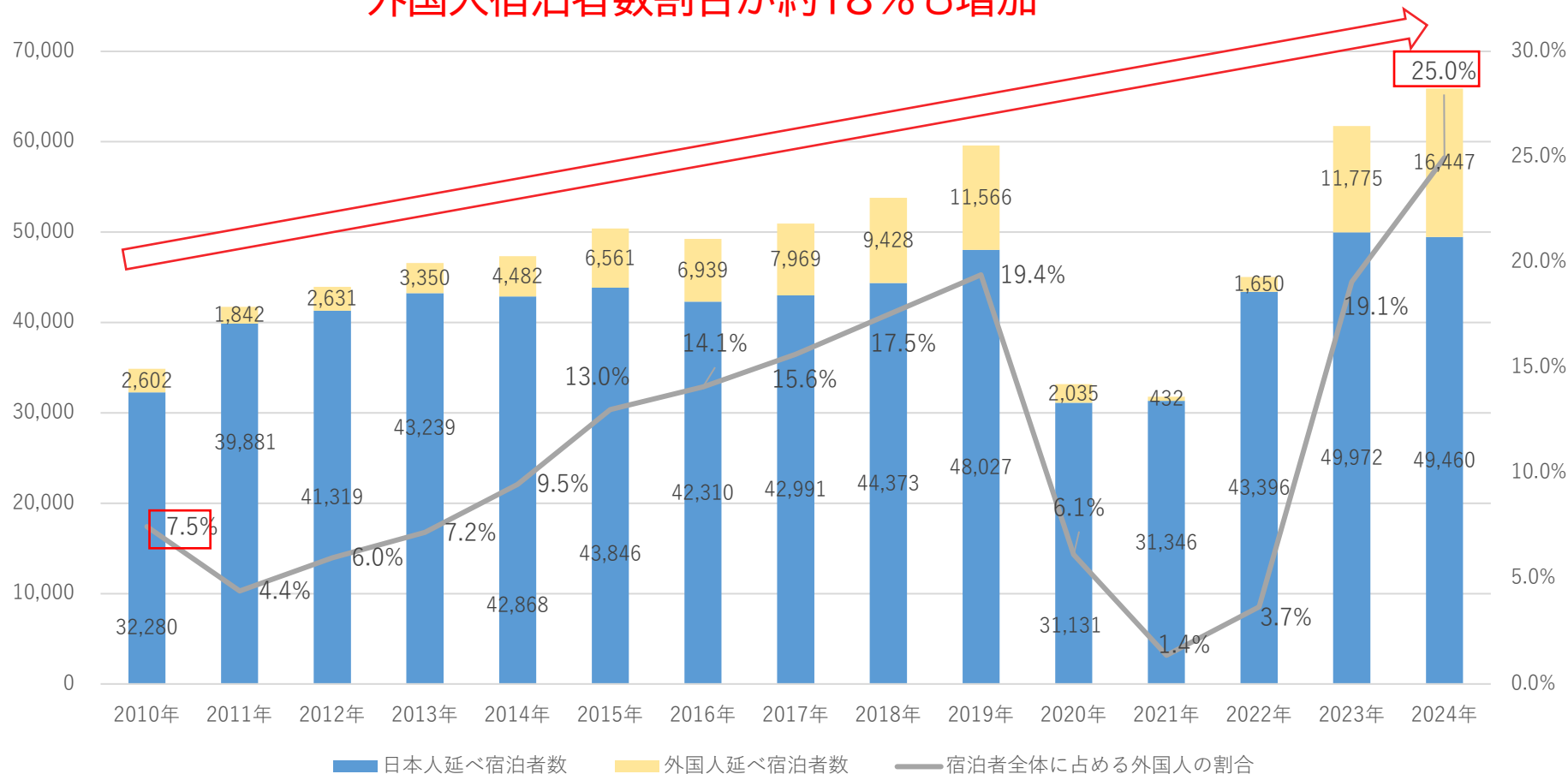
ポイント

①

○震災後の宿泊者数の推移を見ると全国的に日本人宿泊者数の伸びは鈍化、一方で訪日外国人の割合が増えている状況。

【万人泊】

外国人宿泊者数割合が約18%も増加



「宿泊旅行統計調査」(観光庁)より作成

⇒全国的に人口減少が進む中、国内の限られた需要をどのように取り込んでいくか、高付加価値化(観光消費額単価のアップ等)に向けた対応が必要です。

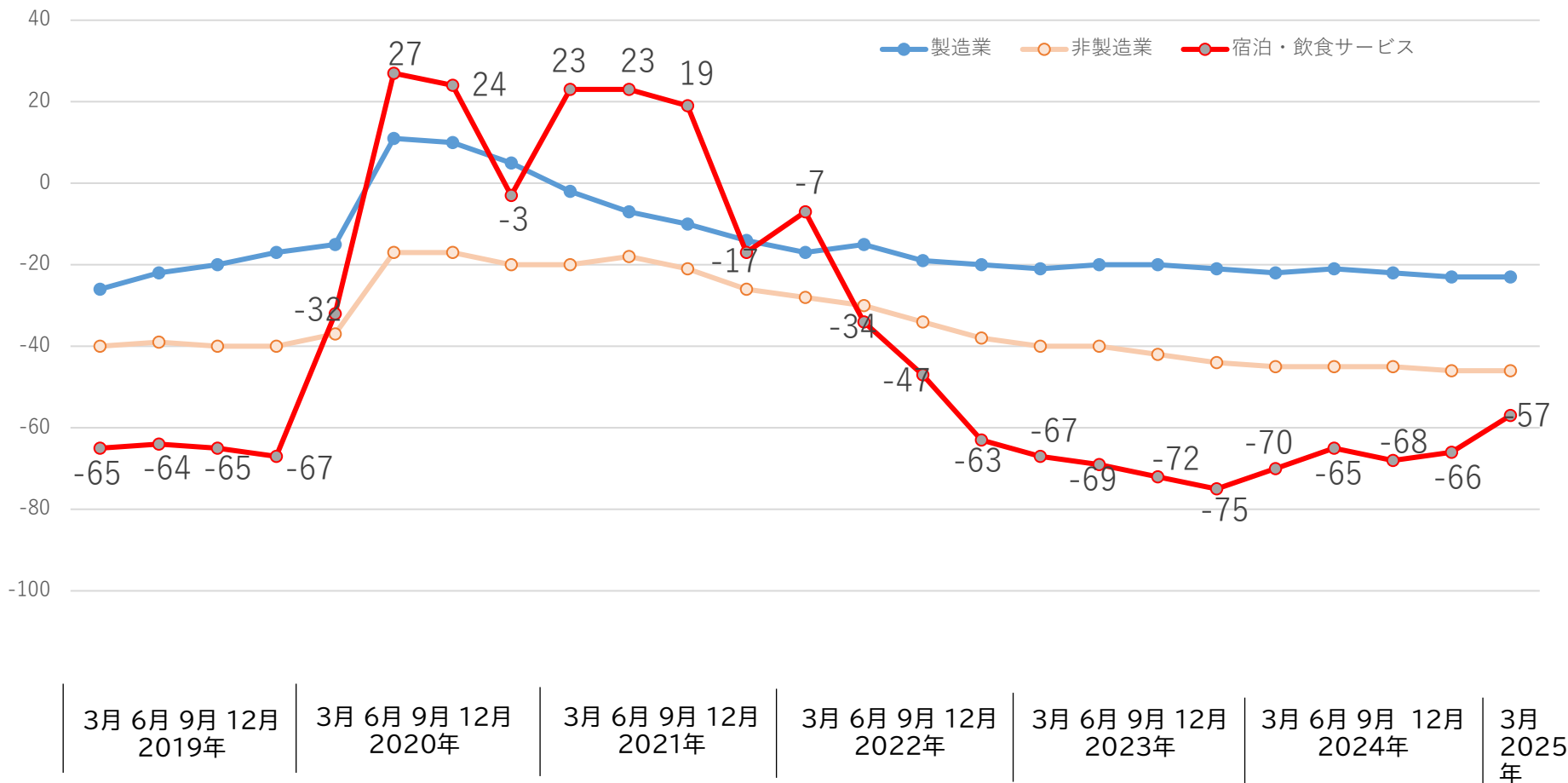
1. 観光を取り巻く現状と課題 ②人手不足

ポイント ②

コロナ禍以降、宿泊業では他業種以上に人手不足が深刻な状況

企業の雇用人員判断D.Iの推移

【%ポイント】



「全国企業短期経済観測調査」（日本銀行）より作成

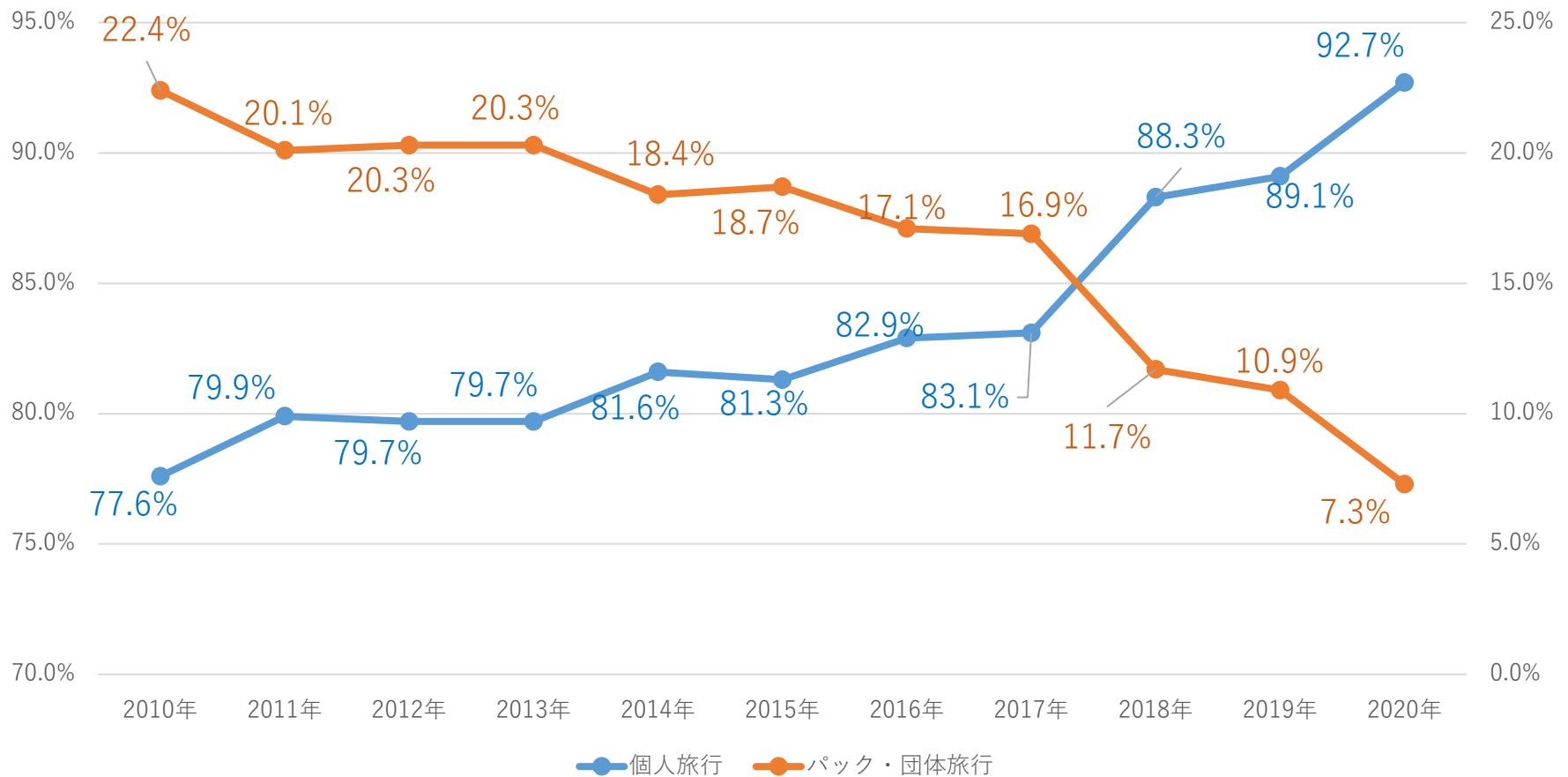
⇒宿泊業の持続性、収益性を高めるためにも人手不足対策は急務となっています。

1. 観光を取り巻く現状と課題 ③旅行形態の多様化

ポイント ③

旅行形態、観光ニーズが多様化している。

個人旅行・団体旅行の割合推移

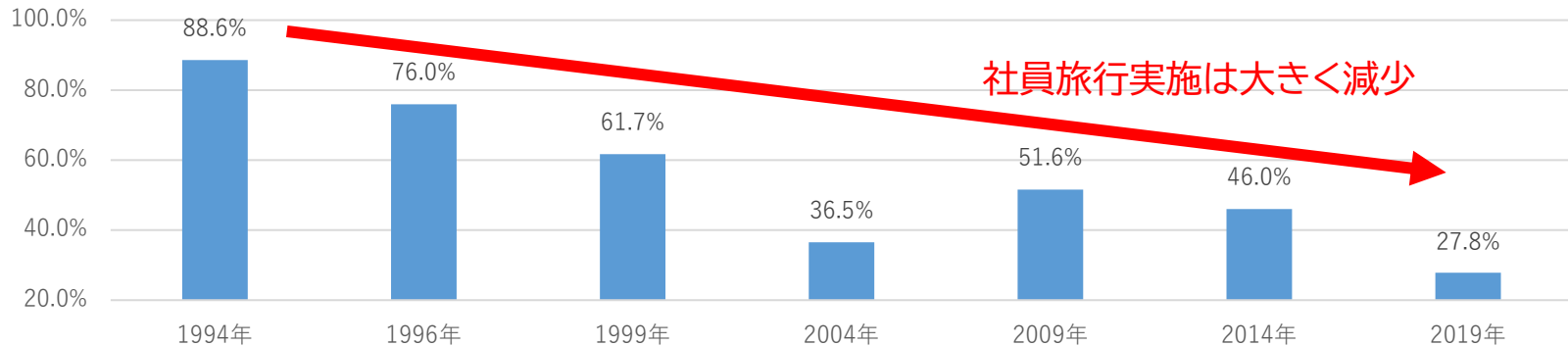


出典：旅行・観光消費動向調査（2020年確報）（観光庁）

⇒個人旅行客の増加など、多様化したニーズへの対応(観光コンテンツの造成等)が必要となっています。

1. 観光を取り巻く現状と課題 ③旅行形態の多様化

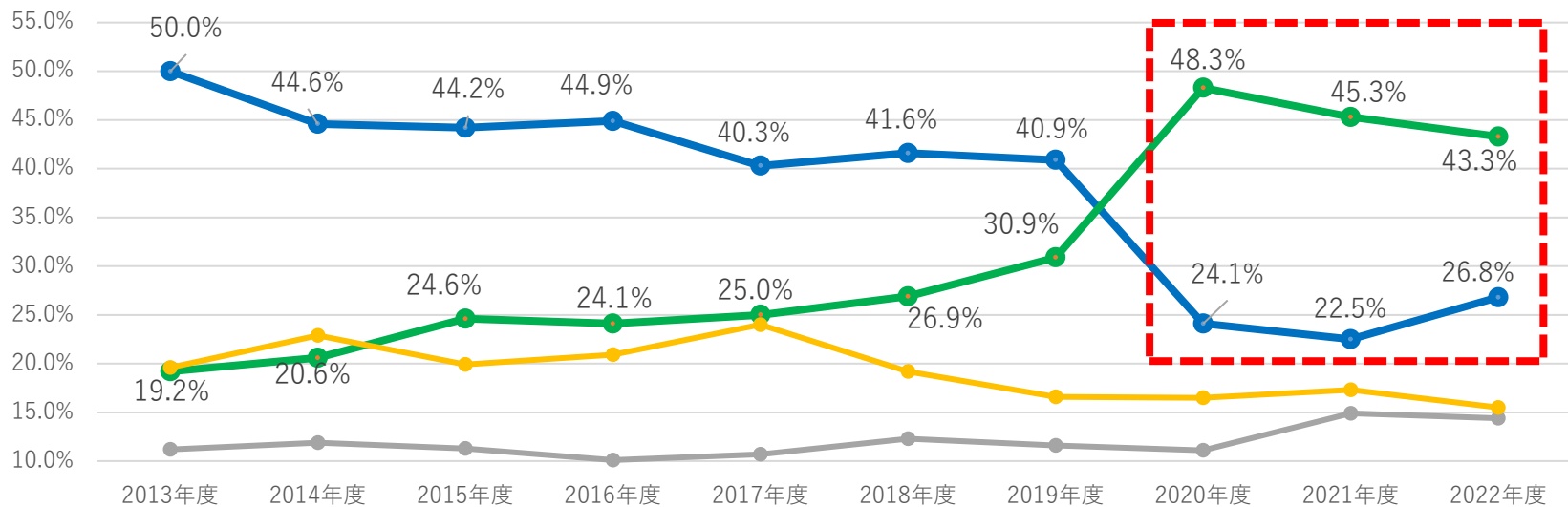
社員旅行実施率



出典：社内イベント・社員旅行等に関する調査（産労総合研究所）

宿泊にあたっての予約経路

予約経路もOTAが主流に



「営業状況等統計調査」（日本旅館協会）を基に作成

●旅行業者経由 ●OTA経由 ●自社HP経由 ●その他

⇒柔軟に対応できる体制づくり、環境整備が急務となっています。

1. 観光を取り巻く現状と課題

④宿泊観光客数

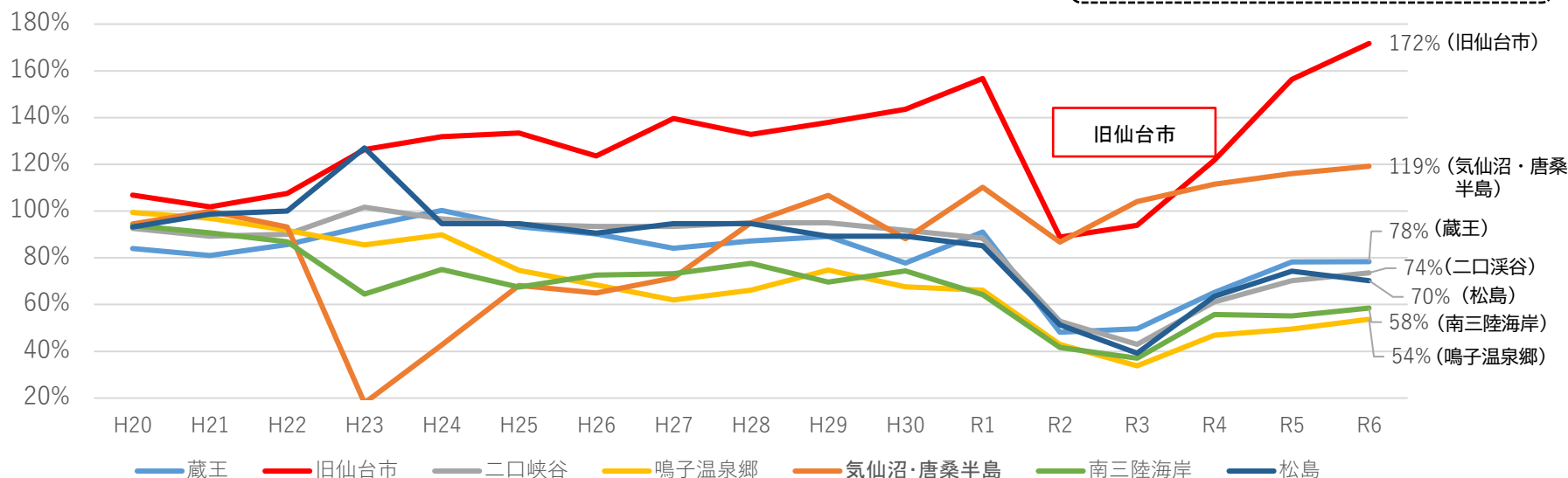
変更
(R6年速報値)

ポイント ④

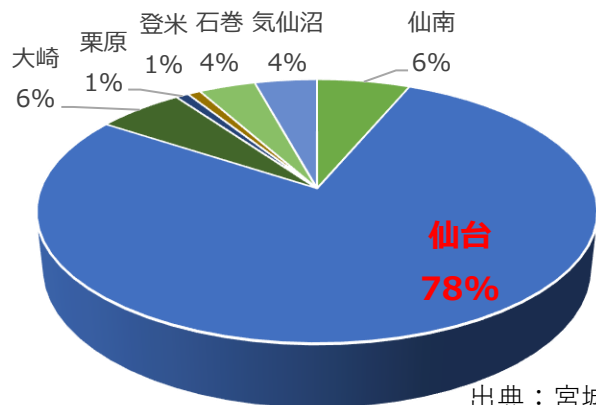
対H19年(H10年以降震災前までで最多)比で、「旧仙台市」(*)が172%と大幅増加
一方、仙台市中心部を含む「旧仙台市」以外は、蔵王【78%】、松島【70%】、二口渓谷(秋保、作並、奥新川)74%】、鳴子温泉【54%】と大幅に減少

宿泊者数の増加率(対19年比)

(*)仙台市のうち旧秋保町、旧宮城町作並・奥新川・定義、旧泉市を除く。



R6圏域別宿泊者の割合



【参考:R6宿泊者数の対H19比】県全体120%、栗原54%、登米242%、石巻100%

⇒地域間で、宿泊観光客数に差が出ており、今後は仙台など集客のある地域からいかに県内全域に送客していくかが、持続可能な地域主体の観光地域づくりを進めていく上で大きな課題となっています。

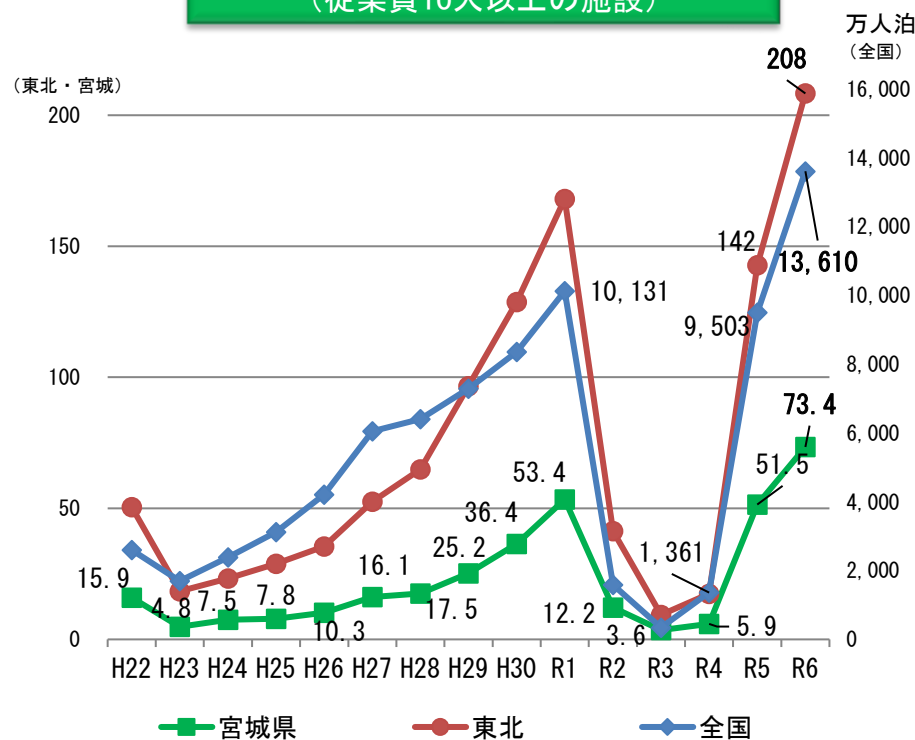
1. 観光を取り巻く現状と課題 ⑤インバウンド

ポイント ⑤

○訪日外国人宿泊者数については、令和5年に水際対策の緩和に伴い、51.5万人と、コロナ禍前の令和元年とほぼ同水準まで回復し、令和6年も、円安による日本への旅行需要の増加により、本県においても過去最高となる約73万人泊を記録する見込み

○一方で、全国の伸びに比べると低位となっており、全国におけるシェアも0.5%にとどまっている。

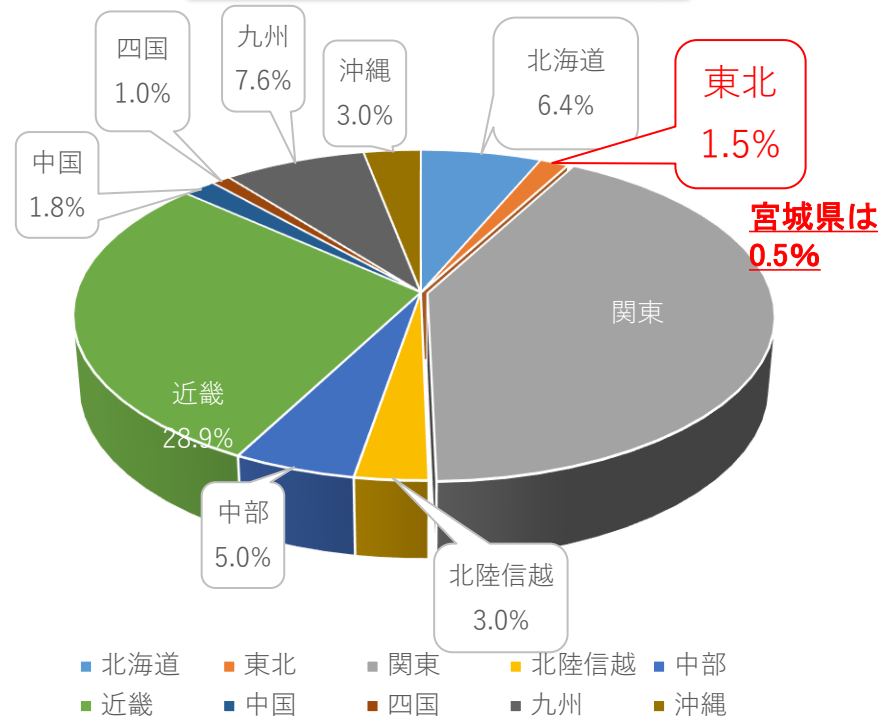
全国・東北・宮城の外国人宿泊者数の推移
(従業員10人以上の施設)



出典：宿泊旅行統計調査（観光庁）

※R6は速報値

地区別外国人宿泊者数の割合



出典：宿泊旅行統計調査（観光庁）

※R6は速報値

1. 観光を取り巻く現状と課題

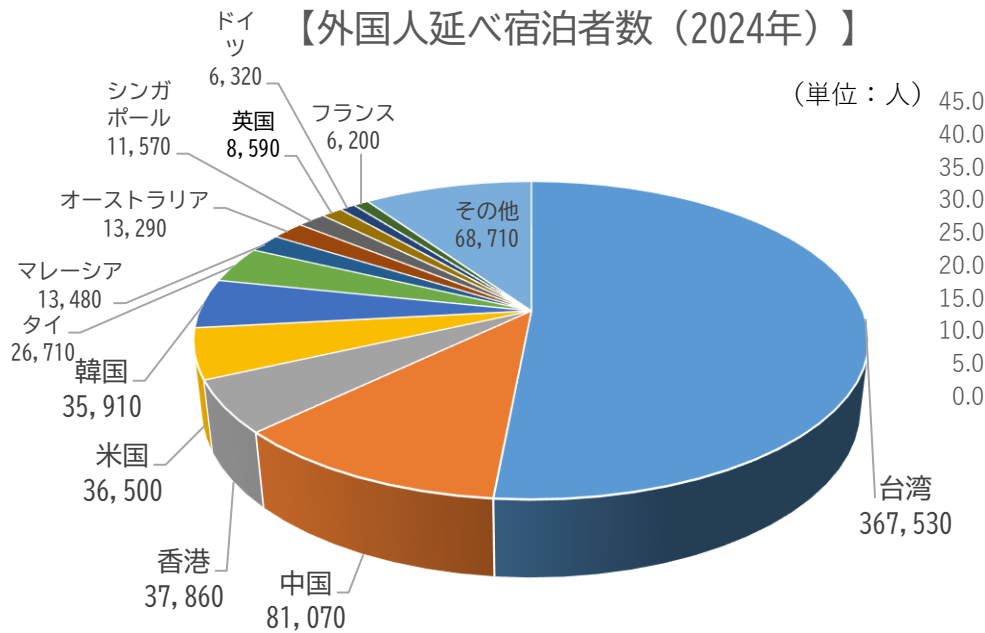
⑤インバウンド

変更
(R6年確定値)

ポイント ⑤

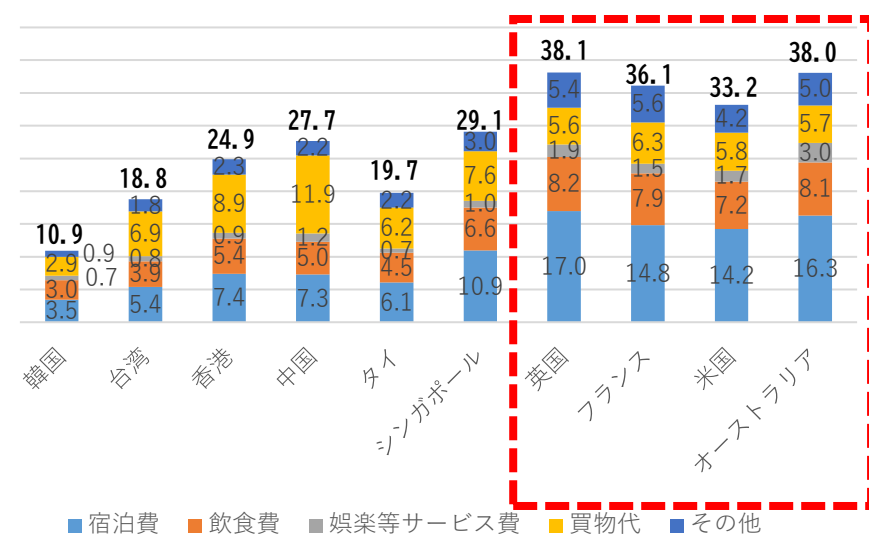
旺盛なインバウンド需要を十分に取り込めていない。
仙台空港との定期便のある台湾、中国からの訪日客が高い傾向にあるが、今後は購買意欲の高い欧米豪などからの誘客にも積極的に取り組んでいく必要がある。

【外国人延べ宿泊者数（2024年）】



出典：R 6 宿泊旅行統計調査（観光庁）

【国籍・地域別消費単価（2024年）】



出典：R 6 インバウンド消費動向調査（観光庁）

2024年の訪日外国人消費額が8兆円を超え、2023年の5兆3,000億円を上回り過去最高となった。これは、半導体や鉄鋼を上回り、日本の主要な輸出品である自動車に次ぐ規模になるなど、インバウンドの経済効果は大きくなっている。

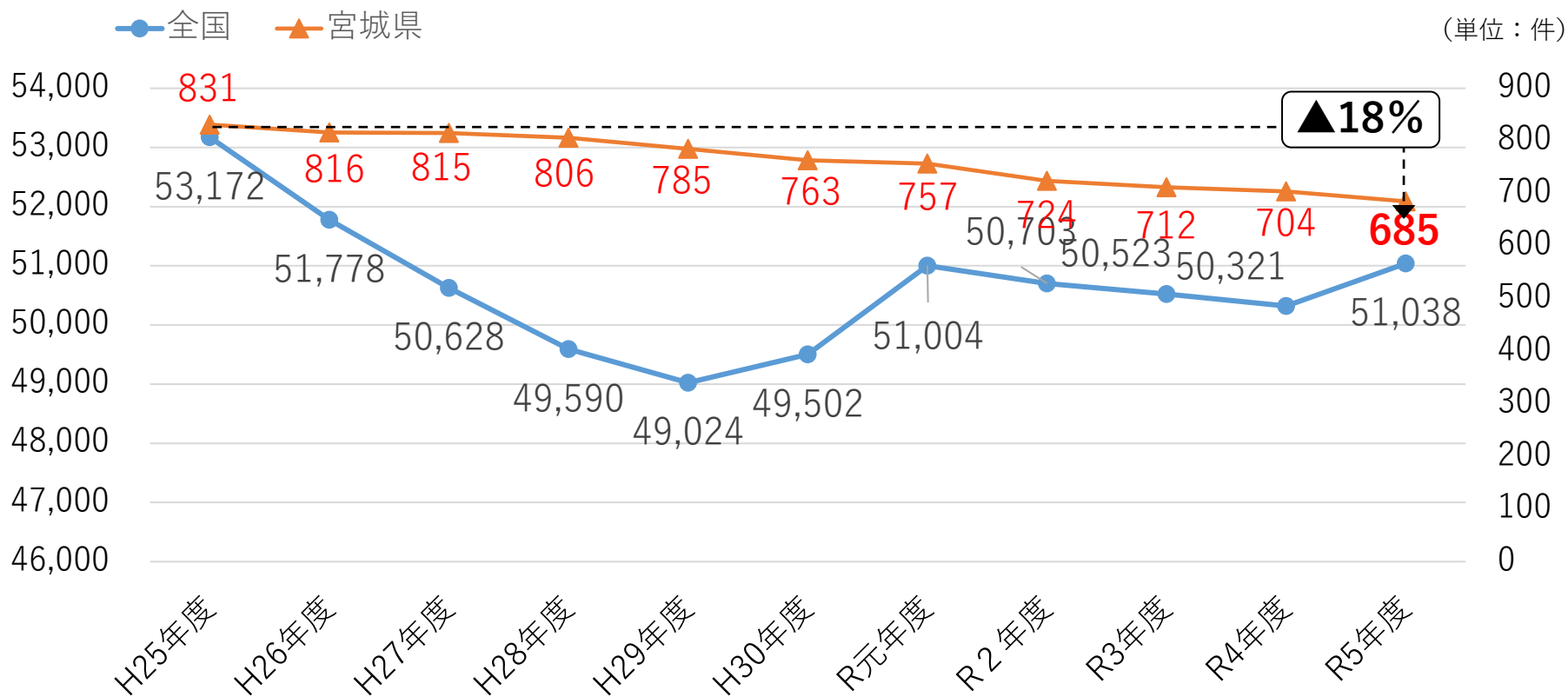
1. 観光を取り巻く現状と課題

⑥ 厳しい経営環境

ポイント ⑥

ホテル・旅館の施設数の過去10年間の推移をみると、全国では、平成25年度には53,172件あった施設は、令和5年度には4.0%減の51,038件まで減少した。
宮城県は、平成25年度には831件あったが、令和5年度には、18%減の685件まで減少しており、全国に比べ減少率が大きくなっている。

全国・宮城県のホテル・旅館の施設数推移(過去10年間)



1. 観光を取り巻く現状と課題 ⑥ 厳しい経営環境

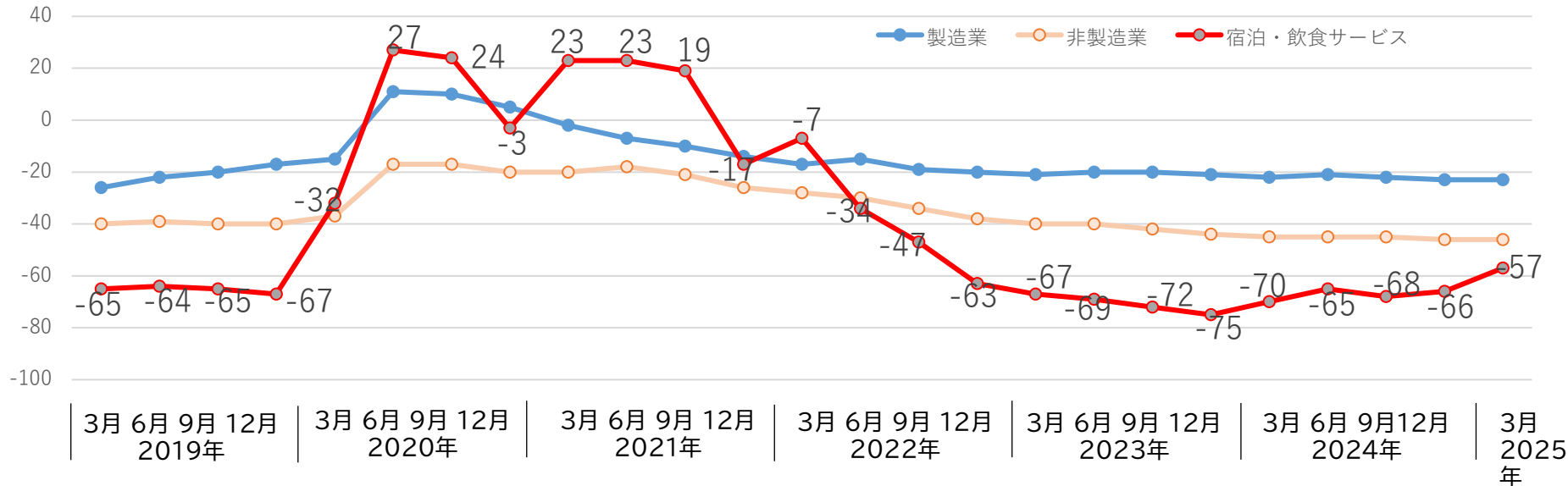
ポイント ⑥

コロナ禍以降、宿泊業では他業種以上に人手不足が深刻な状況
物価高に歯止めがかからず、収益にも影響

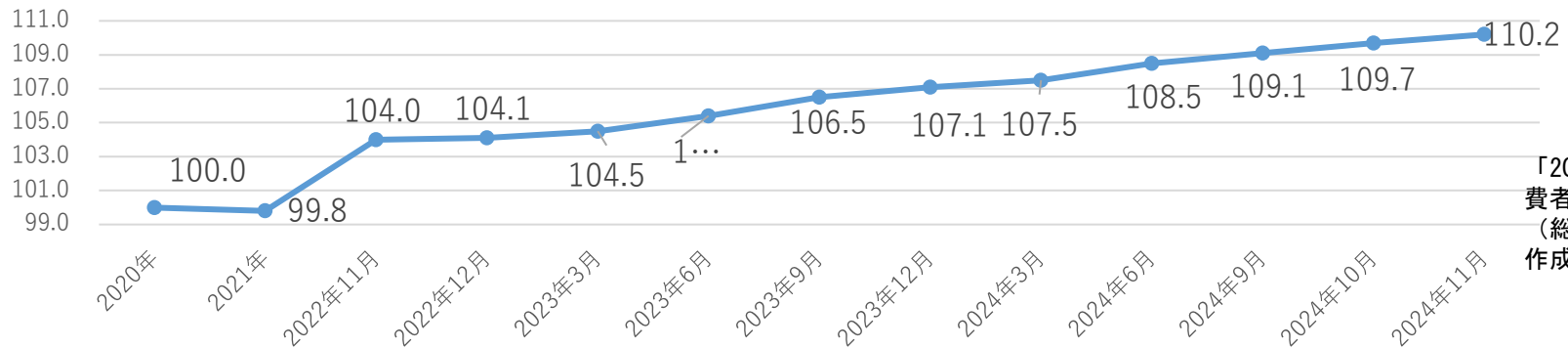
【%ポイント】

企業の雇用人員判断D.Iの推移

「全国企業短期経済観測調査」（日本銀行）より作成



消費者物価指数 総合指標の推移(2020年を100として)



「2020年基準消費者物価指数」
(総務省)より作成

⇒ 厳しい経営環境の中、足腰の強いしなやかな宿泊業の強化が重要。

1. 観光を取り巻く現状と課題

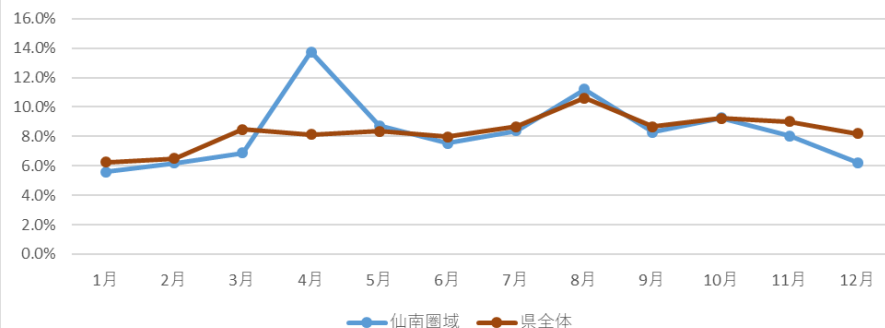
⑥ 厳しい経営環境

ポイント

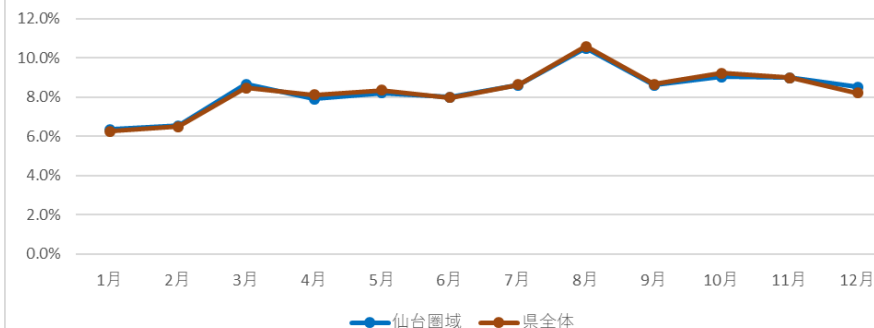
⑥

観光は繁閑期があり、収益性にも影響。

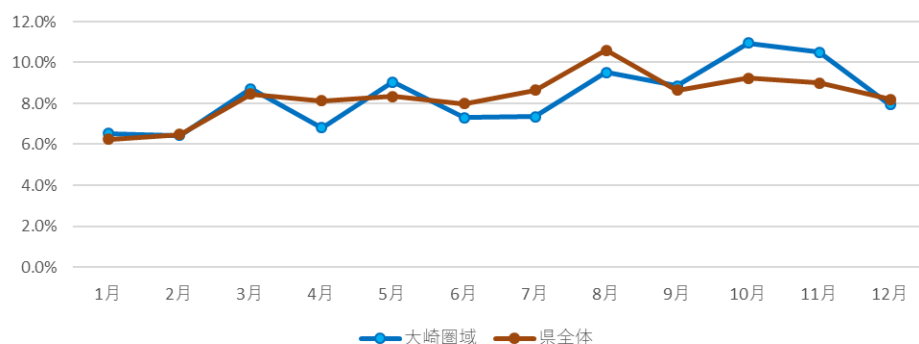
月別宿泊観光客数の割合【仙南圏域】



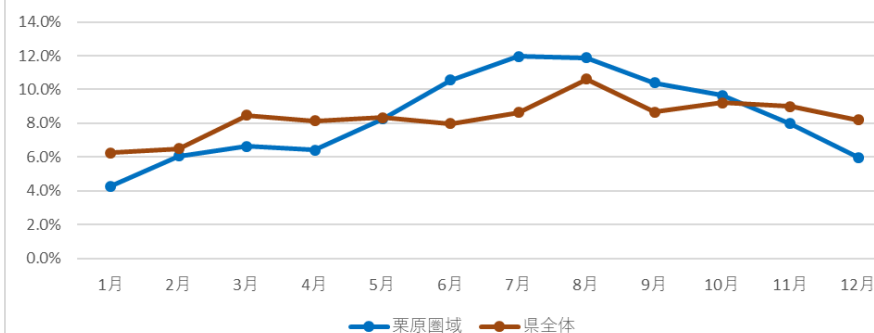
月別宿泊観光客数の割合【仙台圏域】



月別宿泊観光客数の割合【大崎圏域】



月別宿泊観光客数の割合【栗原圏域】



出典：宮城県観光統計概要

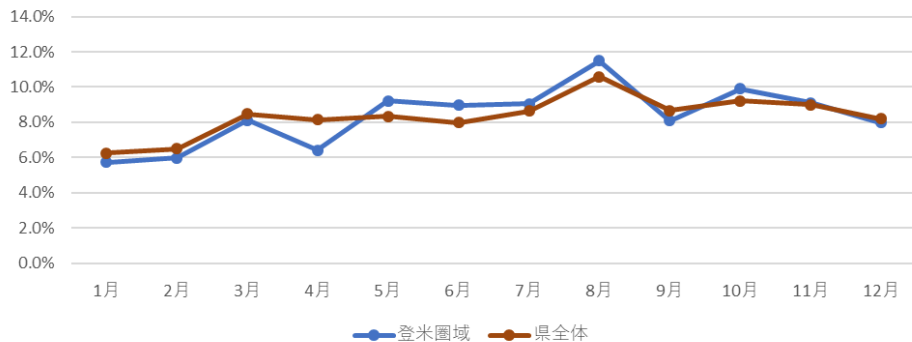
1. 観光を取り巻く現状と課題

⑥ 厳しい経営環境

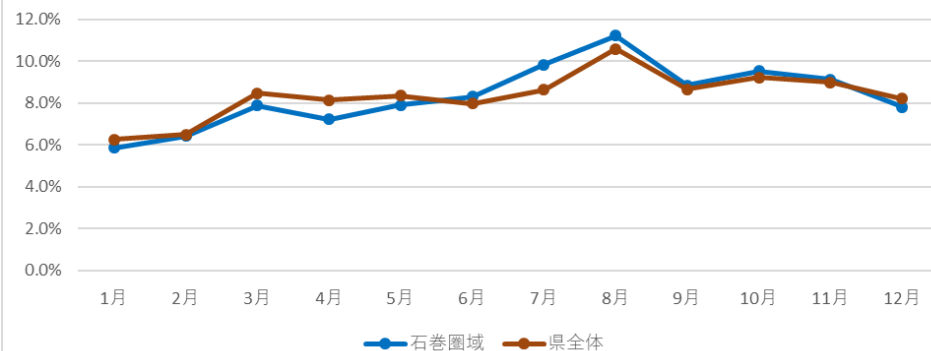
ポイント ⑥

観光は繁閑期があり、収益性にも影響。

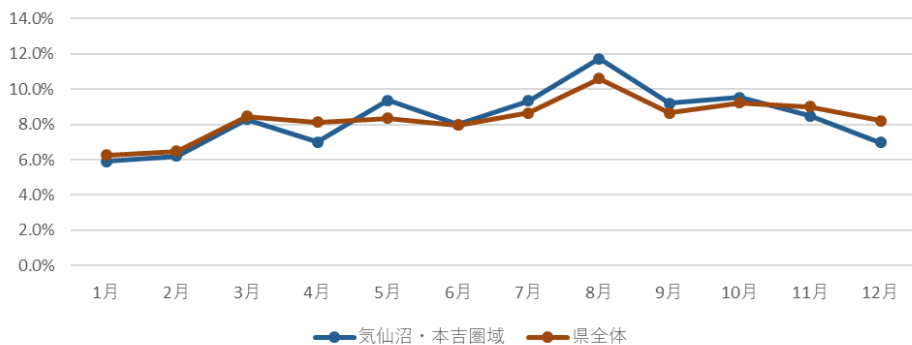
月別宿泊観光客数の割合【登米圏域】



月別宿泊観光客数の割合【石巻圏域】



月別宿泊観光客数の割合【気仙沼・本吉圏域】



出典：宮城県観光統計概要

⇒グリーンシーズンなどの閑散期に足を運んでもらえるような観光コンテンツ磨き上げや適時適切な情報発信が必要

1. 観光を取り巻く現状と課題

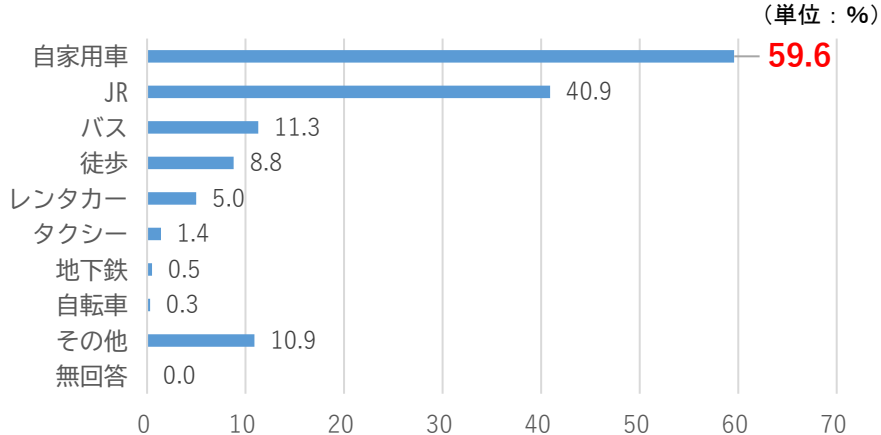
⑦県内観光地における交通手段

ポイント ⑦

○県外客の県内観光地における移動手段は、自家用車、JRが多いが、バス、レンタカー、タクシーも需要あり。

○仙台空港からの移動先は県内55%、県外45%であり、県内のうち仙台市内が約8割を占める。

県内観光地における利用交通機関【県外客】



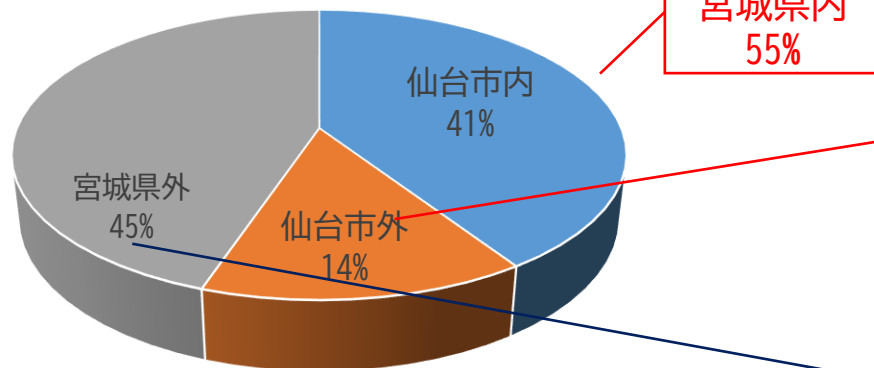
(単位：%)

圏域名	交通手段					
仙南圏域	自家用車	63.4	JR	30.2	バス	13
仙台圏域	自家用車	57.5	JR	44.8	バス	16.1
大崎圏域	JR	57.0	自家用車	47.1	徒歩	4.5
栗原圏域	自家用車	71.3	レンタカー	2.5	JR	1.3
登米圏域	自家用車	97.1	徒歩	2.9	自転車	2.9
石巻圏域	自家用車	63.0	JR	42.0	レンタカー	9.3
気仙沼・本吉圏域	自家用車	83.7	JR	9.9	レンタカー	7.8

【調査内容】 県内13地点で観光地点までの利用交通機関をヒアリング調査

出典：宮城県観光客実態調査

【図2】 仙台空港からの移動先



【仙台市外の主な場所】

- ①松島海岸（松島町）6%
- ②イオンモール名取（名取市）4%
- ③松島駅（松島町）1%
- ④遠刈田温泉（蔵王町）1%
- ⑤蔵王郷リゾート（蔵王町）0.4%

【宮城県外の主な場所】

- ①銀山温泉（山形県）4%
- ②花巻温泉（岩手県）4%
- ③一関市狍鼻溪等（岩手県）3%
- ④山形駅（山形県）2%
- ⑤奥入瀬溪流（青森県）2%

出典：東北観光推進機構 東北観光DMP

⇒県内各地への周遊を促すために、自家用車以外の交通手段を利用する観光客向けの二次交通の充実も必要

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策①

1. 計画期間

令和7年4月から令和10年3月まで【3か年】

2. プラン概要

人口減少社会において観光客の減少が見込まれる中で、**消費額単価の高い宿泊客やインバウンド**を積極的に取り込み、交流人口の拡大や県内経済の活性化を図ります。

主な数値目標

目標指標	R元【実績】	R5【実績】	R9【目標】	ポイント
宿泊観光客数	989 万人泊	943 万人泊 【県内シェア】 仙台圏域77% 他圏域23%	1,104 万人泊 【県内シェア】 仙台圏域75% 他圏域25%	👉 各圏域の実情に応じて、圏域ごとに目標値を設定します。 👉 仙台圏域から県内全域への送客を図ります。

各圏域の 目標値	圏域	R9(目標)	対R5	圏域	R9(目標)	対R5
	仙 南	75 万人泊	+12	仙 台	830 万人泊	+103
	大 崎	87 万人泊	+33	栗 原	11 万人泊	+2
	登 米	9 万人泊	+1	石 巻	44 万人泊	+2
	気仙沼・本吉	48 万人泊	+8	7 圏域計 1,104万人泊		

目標指標	R元【実績】	R5【実績】	R9【目標】	ポイント
外国人観光客 宿泊者数	53.4 万人泊	51.5 万人泊	120 万人泊	👉 消費額単価の高いインバウンド の取り込みを強化します。

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策②

戦略プロジェクト・取組の方向性

今後の取組の方向性を以下の4つに分類し、既存財源に加え、宿泊税を有効活用しながら、観光施策の充実・強化を図ります

戦略1 魅力ある観光資源の創出

- 県内宿泊者数や滞在時間の増加、繁閑期の平準化のため、「食」、「自然」、「歴史・文化」を活用した宮城ならではの観光コンテンツの造成を推進するとともに、市町村や観光関連事業者の創意工夫ある取組を支援します。

取組イメージ

- ・市町村毎の独自色を活かした観光地域づくり
- ・アウトドアコンテンツの利用促進(宮城オルレ、みちのく潮風トレイル等)
- ・教育旅行の誘致促進 等



<宮城オルレの新規コース造成>

戦略2 観光産業の活性化

- 観光産業が抱える人手不足や宿泊施設の収益力の向上に向けて、人材確保やデジタル技術の導入等を推進します。

取組イメージ

- ・省人化・省力化設備の導入推進
- ・就職マッチング機会の創出や定着・スキルアップ支援 等



<従業員のスキルアップ研修>

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策③

戦略3 観光客受入環境整備の充実

- 観光地の魅力向上に向けた面的な整備や、インバウンドをはじめとする旅行者の利便性向上のための受入環境整備を推進するほか、空港や駅などと観光地を結ぶ交通アクセスの充実を図ります。

取組イメージ

- ・観光地全体の魅力向上(ライトアップ、廃屋撤去等)
- ・観光施設等のキャッシュレス対応・多言語化の推進
- ・シャトルバス、レンタカー、乗合タクシーによる周遊促進 等



<周遊バスの運行>

戦略4 国内外との交流拡大の促進

- アジア圏からの更なる誘客に加え、欧米豪の新規市場開拓に向け、東北観光推進機構や東北各県と連携したプロモーションを行うほか、アウトバウンドやスポーツツーリズムの推進に取り組めます。

取組イメージ

- ・海外市場別のプロモーションの強化
- ・県内学校の海外教育旅行の推進
- ・プロスポーツと連携した誘客、学生スポーツ大会・合宿誘致の推進 等



<欧州からのインバウンドモニターツアー>

3. 第1回部会の振り返り

【仙台圏域】

【仙台圏域】圏域観光に対する御意見

- 宿泊税の使途に関する納得感のある説明や、将来への期待感を伝えるメッセージ発信が求められている。
- 宿泊目的の多様性や地域間格差にも配慮した施策展開が求められる。
- 仙台駅・仙台空港などの玄関口を有するが、観光客の流れは仙台市内・松島などに集中。

<観光地域づくり>

- 観光資源が圏域内に点在している一方、それらをつなげて滞在や宿泊につなげる仕組みが十分でない。
- 宿泊税は観光目的以外の宿泊者（例：ビジネス利用等）からも徴収されるが、こうした層への観光情報提供が不足しており、地域内での観光消費につなげていない。

<二次交通対策>

- 公共交通ではアクセスしづらい地域が多く、地域の特性に応じた交通支援の導入が必要。
- 過去の送客取組（例：松島地区の宿泊施設による循環バスなど）では、運営コストや関係者間の調整が課題となり、持続性の確保が重要。

<受入環境整備>

- 宿泊業界では人材不足や不人気業種化が課題。
- DX化を図るためにはコスト・ノウハウ面のハードルがある。
- 小規模宿泊施設や老朽施設では、改修にかかる費用負担が大きく、ハード整備支援の必要性も高い。

<プロモーション>

- 海外市場（欧米等）への広報には、トップセールスやメディア発信など戦略的プロモーションが必要。
- 平日・閑散期をターゲットとした集客企画の支援による観光需要の平準化が求められる。

（１）戦略的な観光地域づくり

- 食・酒・自然体験・アニメなど、地域特性を活かした観光コンテンツを造成し、旅行商品への組み込みを進める視点も重要。
- シンボリックな観光素材やナイトコンテンツの磨き上げを通じて、宿泊の動機づけを強化する取組も期待される。
- 地元発の体験型観光はファミリー層やインバウンドにも人気で、担い手育成とも連動可能。

（２）周遊性向上のための二次交通対策

- 海上交通の活用や駅から観光地へのアクセス改善など、多様なアプローチにより、面的な周遊性を高めることが有効である。

（３）快適な旅行環境のための受入環境整備

- 宿泊業界の人材不足等に対し、外国語対応等を含めたスキルアップ支援が求められる。
- 施設ごとの事情に応じた伴走支援や事例集の活用が効果的。
- 地域景観の維持（例：松島湾の松の保全など）も、宿泊税の活用先として期待される。

（４）効果的なプロモーションの展開

- 食や文化、アニメなどをテーマとした着地型観光の磨き上げ・発信が重要。

【仙南圏域】圏域観光に対する御意見

- 多様な観光資源が点在→各市町の周遊促進には二次交通の充実や山形、福島、福島の隣県を含む広域的な連携強化に加え、各資源の魅力を引き出し、高める努力が必要
- 宿泊客は県内客が過半数を占め、1泊が多い傾向→滞在日数を伸ばす周遊ルートの形成や滞在型メニューの充実を図る一方、昨今の人手不足を踏まえ、宿泊者数の増加だけでなく、観光消費額の拡大を目指す。
- 仙台圏域に宿泊し、日帰りで仙南圏域を観光するケースが多い→仙南圏域内での宿泊・周遊のため、タイムリーな情報発信と観光地での多言語表示やガイドなどの、情報提供手段の整備が必要

(1) 戦略的な観光地域づくり	(2) 周遊性向上のための二次交通対策
○広報 ・良い施設があるのに情報が行き届いていない。 →観光ルート、施設等の事務所SNSを活用した広報の充実 ・宮城県沿岸部と蔵王山麓との連携が必要→他圏域との連携 ・インバウンドの誘致、広域的なPRの支援 →インフルエンサー等による観光プロモーションの実施 ○コンテンツ造成支援 ・滞在時間を延ばし、宿泊につなげる取組が必要 →早朝、夜間のコンテンツ造成支援 ○情報共有 ・圏域への来訪目的などがサービス業で共有される取組が必要 →旅行者のニーズ把握・観光に関わる幅広い業態からの情報収集・共有 ○市町への観光財源交付	○広報 ・圏域は高速道路の利便性が高く、仙台や山形・福島へのアクセスに便利であることをPRしてはどうか。 ・新幹線白石蔵王駅を起点としたレンタカー、タクシー、バスなどの交通手段のアピールをしてはどうか。 ・二次交通が便利になると、仙南圏域への日帰り観光が増加するおそれがある。仙南圏域ならではの、不便を楽しむ田舎暮らし体験も特徴的である。 ○二次交通の不足 ・タクシー事業者の廃業で、タクシーの台数が減少 ・ライドシェアを検討してはどうか。 ・公共交通機関の終点から御釜など観光資源までの二次交通が乏しい。 ○市町への観光財源交付
(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備	(4) 効果的なプロモーションの展開
○人材育成 ・必要とする人材が宿泊施設によって異なるため、画一的なセミナーはなじまない。 ・外国人材については既存のサポートで充足している。 →宿泊税はメリハリをつけて充当してほしい。	○ターゲットを絞るのではなく、特色ある施設を用意して、観光客に選んでもらってはどうか。

【大崎圏域】圏域観光に対する御意見

- 人材育成や誘客のための環境整備に要する人手や費用が不足しており、これらへの支援を検討すべきである。
- 地域の実情に応じて、国内客とインバウンドのバランスに考慮した集客施策を検討していく必要がある。
- 周遊促進のためには、インフォメーション機能を充実させ、大崎地域の情報を発信する必要がある。
- 最寄り駅や仙台から大崎地域の観光地へ移動するための交通機関の利便性には課題が多く、改善が求められている。

(1) 戦略的な観光地域づくり

- 花畑の整備など誘客を目的とした環境整備活動を継続するための資金に対する支援や、アクティビティ事業における利用者の安全確保に関する講習受講といった人材育成に対するスタートアップ支援があれば良い。
- 鳴子温泉の高付加価値化と持続可能な観光地づくりを目的とした組織の運営などに宿泊税が利用できると良い。
- 健康志向の長期滞在や湯治文化とも共存できるので、潟沼までの遊歩道の整備や鳴子峡の景観整備を検討してもらいたい。

(2) 周遊性向上のための二次交通対策

- 川渡から中山平や鬼首までを周遊する交通手段、宿泊客が街歩きをするきっかけとなる施策があれば、宿泊施設の外を回る客が増え、賑わいにもつながる。
- 仙台空港などでのインフォメーション機能強化、インバウンド客を対象とした、周遊モデルコース造成やガイドブックの作成が考えられる。
- 交通機関の週末の運行を支援する取組があると良い。
- インバウンド推進のためにも、県には陸羽東線の復旧を要望してもらいたい。

(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備

- 圏域内を広く案内できるエコツーリズム等の専門ガイドを養成し、必要に応じて活用できる体制を整えることが考えられる。
- インバウンド推進に当たり、地域住民の生活・環境の保全や二次交通対策に関する取組など地域に還元される施策を講じて欲しい。

(4) 効果的なプロモーションの展開

- 鳴子温泉においてインバウンドが少ないことを好意的に捉える宿泊客もあり、パンデミックが再び起きたときなども考えると、地域の実情に応じた集客を検討すべきではないか。
- 大崎圏域のインバウンドはまだ伸びしろがあるものの、ピンポイントで有効となる取組をする場合でも、個人では難しい場合には県や圏域単位で取り組む必要もある。
- ターゲット層の真のニーズ把握のため施策の議論に女性を交えたり、年代や性別等のきめ細かいデータをもっと収集できるよう、宿泊客以外にも大崎地域や県全体へのアンケート調査を行うなど、多様な意見を取り入れることも必要ではないか。

【栗原圏域】圏域観光に対する御意見

- 観光に来て地域にお金を落としてくれる層は60～70代が多い。コロナ禍以降、栗駒山の登山客の入浴の利用も減り、消費しなくなっている印象がある。
- 栗原地域はタクシーが少なく、夕方・夜は移動が困難である。
- 海外からの宿泊客には、宮城県内の各地域の観光情報が知られておらず、行くための交通手段も分からない。

(1) 観光地域づくりを行う地域への支援

- 宿泊客向けに飲食店等の情報が掲載された「まち歩きマップ」等があると、観光消費額の増加にもつながるのでは。
- 登山客向けに物販イベント等を実施する際は、お金を落としてもらうための仕組みや工夫が必要。
- 栗駒山麓ジオパークと周辺各地のジオパークが連携した広域周遊、広域観光ができると面白い。
- 仕事で宿泊した方が、後日、余暇で家族と過ごす場所として宮城県を選んでもらう動機の一つとなるポイント付与の取組があっても良い。
- 各業種の観光関係者をとりまとめ、方向性付をできるような地域観光の舵取り役を担う体制整備が進むと良い。
- 地域の宿泊事業者が集まる場は意外と少ないので、今回のような場を通じて情報交換できることは非常に参考になる。

(2) 周遊性向上のための二次交通対策

- JRと高速乗合バス、市民バス等の地域内を運行する公共交通の乗り継ぎ時刻や場所、運賃等について、利用者が出発地と目的地を入力するだけで容易に検索できる、栗原版「NAVITIME」のような乗り替え案内サイトが構築されると良い。
- 仙台＝栗原間の高速乗合バスを活用した送迎付きの宿泊プランが好評で、一定の集客につながっている。
- オンシーズンに仙台空港からいわかがみ平への直通の高速乗合バスがあれば、インバウンドも含め、ダイレクトに来てもらえる。
- ライドシェアや、JRくりこま高原駅から温泉旅館までの移送において、タクシー事業者に補助金が入る仕組みを取り入れてほしい。
- 個人旅行が中心になってきているので、複数の宿泊施設を経由して観光に回るようなオプションツアー（小規模な観光プラン）を連携して作れると良い。
- 宿泊事業者が送迎用に使う車両の購入に活用できる補助事業がほしい。

(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備

- 都市部の学生など、地域外の人材を活用して旅館業務を手伝ってもらう際、交通費等の補助があるとありがたい。参加した学生等は地域のファンとなり、関係人口増大にもつながっている。
- 人材育成について、宿泊事業やバス事業ともに働き手の年齢層が高く、将来的な担い手となる若い世代にフォーカスを当てた人材確保・人材育成が必要。

(4) 効果的なプロモーションの展開

- 栗駒山は紅葉の時期の客が非常に多いが、新緑の時期も素晴らしいので、そこをPRすることで年に複数回来ていただけるようになるのでは。
- インバウンド向けに、仙台空港で栗原地域をPRするイベントができると良い。
- 新幹線で駅に着いてから地域の観光スポットを回る旅の一連の流れを、移動手段を含めて紹介する情報発信があれば良い。

【登米圏域】圏域観光に対する御意見

- 観光が「見るだけ」にとどまっており、地域滞在時間が短い。
- くりこま高原駅などの主要駅から登米市内への移動手段が限られており、タクシーの確保も困難。市内の移動手段も少ない。
- 観光地の魅力としての「地元らしさ」を維持するには、地元の若者に働いてもらうことが重要。

(1) 戦略的な観光地域づくり

- 観光案内看板の整備がされると良い。(老朽化看板の撤去、観光地の看板の新規設置・更新、多言語表記)
- 観光地周辺において、24時間使用可能なトイレが増えるといい。
- 体験型観光(農業体験等)の充実や滞在時間を延ばすための施策(地域クーポン配布等)を実施する必要がある。
- 観光資源としても必要な、地域における自然・文化資源(桜や文化財など)の維持管理に対する公的支援があると良い。

(2) 周遊性向上のための二次交通対策

- 乗り捨て可能・電動タイプのレンタサイクルを充実させると良いのでは。
- タクシーの確保が困難。(台数不足・地域によっては近距離では対応されない・高齢者利用や介護で予約が埋まりがち)
- 登米市までのアクセス、登米市内の移動手段、どちらも手段が少なく、情報もまとまっていない。
- タクシードライバー不足を補うため、ドライバー経験のある地元住民による送迎サービスなども検討すべきではないか。

(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備

- 観光地の魅力としての「地元らしさ」を維持するには、地元の若者に働いてもらうことが重要。農業の「農の雇用」のような制度(新たに雇用した人に研修を受けさせることで、雇用側が助成金を受け取れる制度)を観光分野にも導入すべき。

(4) 効果的なプロモーションの展開

- 旅行会社やターゲット層とのマッチング支援が必要。
- 登米市らしい特徴的な体験・商品を掘り下げ、特定の層に向けてアピールできるニッチな観光コンテンツの強化が必要。
- 授乳室やお湯の提供、バリアフリー設備(トイレ等)の整備等を進めることで、地域の魅力向上・他地域との差別化につながるのではないかと。
- クレジットカードや電子決済対応店の拡充が求められている。タクシー等も同様。
- 道の駅三滝堂のドッグランや登米神社のペット御祈祷の取り組みもある。ペット同伴客の需要を意識したプロモーションも良いのでは。

■ 宿泊者数の回復に向けた取組の強化

- ・宿泊施設ではビジネス需要が減少傾向にあるため、稼働率の回復に向けた取組が必要である。
- ・団体旅行から個人旅行への変化に対応し、個人旅行者向けのサービス強化が求められている。

■ 周遊性と滞在時間の向上を図る移動手段の確保

- ・バスやタクシーなどの二次交通が不足しているため、移動手段の確保が必要である。

■ インバウンド受入環境の整備

- ・今後拡大が見込まれるインバウンド受入に対応するため、訪日外国人旅行者の受入体制等の環境整備が必要である。

■ 厳しい経営環境に対する支援

- ・気候変動の影響による魚種の変化や海産資源の不安定化に加え、物価高騰や人手不足等が深刻化しているため、冬季などの閑散期を含め安定的な集客策の確立と持続可能な経営体制の構築支援が求められている。

■ 観光関係者間の連携強化

- ・観光振興を地域全体で押し進めていくためには、観光関係者同士の協力体制の強化が重要である。

施策1 戦略的な観光地域づくり

① 体験・コンテンツ開発・商品造成

- **体験ツアー造成・販売**
 - ・体験ツアー造成支援
 - ・アドベンチャーツーリズム×ローカルガストロミー
- **漁業体験の観光化**
 - ・遊漁船安全設備の導入補助
 - ・遊漁船資格の取得支援
- **ダイビング・マリンスポーツ・SUP等**
 - ・ダイビングポイント開発
 - ・マリンスポーツ宿泊ツアー補助
 - ・モーターボート、SUP
- **一次産業との連携**
 - ・漁業者協力のブルーツーリズム支援
 - ・新魚種レシピ勉強会
- **オルレ利用者の宿泊誘導**
 - ・オルレ×宿泊特典制度
 - ・ポイント事業・口コミ

② 地域資源の磨き上げ・差別化

- **金華山等の観光資源活用**
 - ・金華山の魅力調査・プロモーション
 - ・船のカモメ餌やり体験
 - ・海中観光資源調査
- **他地域との差別化**
 - ・石巻ならではの尖った戦略
- **圏域ブランド確立**
 - ・田代島・金華山のジグクス活用
 - ・広域マップ作成
 - ・スタンプラリー、特典企画

③ 広域連携・交流拡大

- **集客力のある地域との連携**
 - ・仙台・松島との連携
 - ・観光客を引き込む仕掛け
- **スポーツ合宿・長期滞在**
 - ・積雪の少なさを活かしたスポーツ合宿誘致
 - ・全国合同練習会
 - ・送迎費補助
- **滞在型宿泊促進**
 - ・釣り・SUP等拠点開拓

④ インバウンド誘致

- **金華山・田代島・地域資源の海外発信**
 - ・鹿・猫など人気資源の発信
- **インバウンド商品造成**
 - ・団体ツアー組み込み
 - ・ブルーインパルス搭乗体験
 - ・馬車運行補助
 - ・自動翻訳機補助

⑤ イベント・プロモーション

- **海を活用したイベント**
 - ・海上競技、音楽フェス
- **目玉イベント**
 - ・花火大会、ドローンショー
 - ・エリアマップ作成

⑥ ターゲティング・戦略立案

- **ターゲットの明確化**
 - ・30～40代女性中心の戦略

施策2 周遊性向上のための二次交通対策

① 地域内周遊・二次交通整備

● 圏域内の移動

- ・塩竈・松島から石巻圏域への移動手段整備
- ・石巻市内の観光地を巡る定期循環バス
- ・駅と宿・観光地をつなぐバス
- ・観光客向け交通手段・周辺案内サポート

② 個人客・多様な移動手段の導入

● 個人向けモビリティ

- ・電動キックボード・カーシェア
- ・レンタサイクル補助
- ・EV充電設備の電気代補助

③ 空港・広域アクセス整備

● 仙台空港⇄石巻圏域

- ・送迎バスの整備
- ・直行便による誘客強化
- ・スムーズな移動手段の整備

④ 地域資源を活かした交通体験

● 観光体験型移動

- ・馬車運行の補助

施策3 快適な旅行環境のための受入環境整備

① 観光受入体制の整備・強化

- 予約体制の強化
 - ・ツアー予約受付やコンダクター支援
- 体験コンテンツ受入れ連携
 - ・空き枠を他施設に案内する仕組み
- 施設改修支援
 - ・和室改装、テーマ宿泊企画支援
- 移動手段の確保
 - ・EV充電設備補助
- DX設備に対する補助
 - ・フリーWi-Fi等インバウンド対応

② 地域連携・ネットワーク強化

- 連携体制整備
 - ・DMOの横断調整・事業者連携
- 地域間の連携
 - ・三陸道・JR沿線共通通貨、クーポン
- 地域連携強化と情報発信の仕組みづくり
 - ・パンフレット配布、広域PR
- 他地域関係者・関係人口との連携
 - ・縁を活かした観光PR
- 地域発観光企画を形にする仕組み
 - ・企画の実行補助
- 地域連携強化と情報発信の仕組みづくり
 - ・広告宣伝費補助（重複）
- 広域連携による競技団体誘致
 - ・運動施設の広域利活用

③ 情報発信・マーケティング

- OTA戦略見直し
 - ・新たなOTA戦略
- ターゲットの明確化
 - ・30～40代女性中心層
- 他地域との差別化
 - ・尖った戦略の必要性
- 広域的情報発信
 - ・パンフレット・PR
- 広告宣伝費への補助

④ 地域資源活用・体験観光推進

- 地域資源を活かしたインバウンド誘致
 - ・釣り船業者情報提供
- 地域資源を活かしたインバウンド誘致
 - ・自動翻訳機等補助
- 漁業体験観光化支援
 - ・遊漁船安全設備、資格取得支援
- 宿泊施設の地元食材購入支援
 - ・地元食材の提供・補助

⑤ 人材育成・担い手づくり

- 観光振興の担い手づくり
 - ・若者対象のワークショップ
- アドバイザー等の招聘
 - ・他地域成功事例の助言

⑥ 施設・環境のDX・インフラ整備

- 施設改修支援
 - ・和室改装、テーマルーム
- DX設備整備補助
 - ・フリーWi-Fi

施策4 効果的なプロモーションの展開

① 海外向け情報発信・プロモーション強化 (外国人向けの情報発信・広報活動)

- 海外向け情報発信の強化
 - ・VISIT MIYAGIへの情報掲載強化
 - ・OTA・DMOへのリンク強化
 - ・SNS・TikTok向けプロモーション動画
- 人を呼び込むためのSNS強化
- プロモーションの強化
- 外国人インフルエンサーの活用
- 地域資源の海外発信（例：金華山の鹿、田代島の猫）

③ 観光資源の活用・新商品造成 (石巻地域ならではの資源やイベント活用)

- 金華山の外国人向け活用
 - ・魅力調査
 - ・プロモーション（鹿・海・緑・ヨガ）
 - ・海中資源調査
 - ・団体ツアーへの組み込み（カモメ餌やり）
- イベント開催による誘客
 - ・花火大会・ドローンショー
 - ・エリアマップ作成
- 地域資源活用（②と重複）

② インバウンド誘客・市場開拓

- インバウンド対策
 - ・仙台空港の直行便を活かした誘客
 - ・台湾・中国などからの来訪促進
- 外国人の長期滞在促進
 - ・長期滞在施設紹介サイト開設
 - ・レンタカー補助
- 地域資源を活かしたインバウンド誘致
 - ・SUP、モーターボート、牧場体験
 - ・釣り船情報を宿泊施設に提供
 - ・ブルーインパルス搭乗体験
 - ・マリンスポーツ宿泊ツアー補助
 - ・馬車運行補助
 - ・自動翻訳機購入補助

④ 宿泊・食の魅力発信 (宿泊・地元食材・サービス強化)

- 宿泊施設における地元食材の購入支援
 - ・石巻限定食材の提供
- 長期滞在施設紹介
- 宿泊・マリンスポーツツアー補助

④ インバウンド受入環境整備 (施設・DX・多言語対応の充実)

- インバウンド対応力の向上
 - ・多言語SNS予約・メッセージ対応支援
- DX設備に対する補助
 - ・フリーWi-Fi等

【気仙沼・本吉圏域】圏域観光に対する御意見

(1) 戦略的な観光地域づくり

- 圏域の強みは「食（ガストロノミーツーリズム）」「アドベンチャーツーリズム」「防災・震災」。
- 食については、食だけではなく地域の歴史・文化とセットで価値を高めるとともに食文化の違いに配慮する必要がある。
- 欧米には山と海の絶景を同時に味わえるロケーションが少なく、三陸の景観はそれだけで需要がある。
- 朝夕も楽しめたりアルコールが伴うイベントが宿泊に直結しており、そうしたイベントは非常に重要である。

(2) 周遊性向上のための二次交通対策

- 移動手段の不足が観光満足度を下げる要因になっており、レンタカーを利用する観光客に対して金銭的支援を行うなど、宿泊者向けの交通支援制度を構築すべき。
- 小型のコミュニティバスを循環させるなど、小回りの利く交通網の整備が必要である。
- JR大船渡線の維持・改善に向けて自治体とJRとの連携強化が必要である。

(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備

- 地域全体で観光の意識を共有できる勉強会や支援制度の実施が望まれる。
- イベント主催者に任せきりでは続かず、人手不足を含め人材や運営面を行政と民間が協力して支えることが重要である。
- 宿泊税の一部を人材確保への補助金に充ててはどうか。
- 富裕層をターゲットにした、いかなるニーズにも対応する「スーパーガイド」を養成してはどうか。

(4) 効果的なプロモーションの展開

- 気仙沼圏域の豊富な食資源を活かした「究極の食ツアー」を打ち出し、旅行会社やインフルエンサーとのコラボやYouTubeなどを活用した情報発信を積極的に行ってはどうか。
- みちのく潮風トレイルの利用者は、全行程を踏破するバックパッカー的なロングトレイル利用者と、複数回にわけて踏破するセクショントレイル利用者の二極化があり、それぞれに合わせたプロモーション戦略が必要である。

4. 第1回部会での御意見を踏まえた施策案

現状・課題

目指す姿

注力していく施策

地域の魅力づくり・滞在期間長期化

- 地域独自の魅力創出が課題
- 夜まで楽しめる観光コンテンツが不足
- 人は来ているが、地域にお金が落ちていない。

- 地域資源を活かした特色ある観光地
- 夜まで賑わう、長期間滞在したくなる観光地
- 観光客で賑わい潤う観光地

施策1 戦略的な観光地域づくり

- 地域の創意工夫ある取組の充実・事業主体の体制強化
- 宿泊につながるナイトタイム(夜間・早朝)コンテンツの充実
- 観光消費による地域経済への波及

交通アクセスの充実

- 公共交通機関でのアクセスが不便
- 交通案内が多言語対応していない

- 交通手段の多様化により周遊しやすい観光地
- 目的地までにスムーズに移動できる観光地

施策2 周遊性向上のための二次交通対策

- 空港や最寄り駅など交通拠点からの交通手段、観光地内を周遊する交通手段の確保
- 二次交通の情報発信の充実

観光人材の確保・案内充実

- 施設スタッフの確保が困難
- 圏域内を広く案内できる専門ガイドが不足
- 観光案内が多言語対応していない

- 地域の雇用を生み出し、おもてなし力が高い観光地
- 外国人も快適に過ごせる観光地

施策3 快適な旅行環境のための受入環境整備

- 宿泊人材確保に向けたマッチング支援やスキルアップ支援
- 効率的・持続的経営支援
- 観光案内ガイドの育成・確保
- インバウンド向けの観光案内の充実

情報発信の強化

- 宮城県の認知度が低い
- 観光地のイベント情報が集約していない。

- 観光地の魅力を積極的に発信し、国内外から訪れたい観光地

施策4 効果的なプロモーションの展開

- 新規市場開拓に向けた宮城県の認知度向上
- SNS等を有効活用したデジタルプロモーションの推進

施策1 戦略的な観光地域づくり①

【重点テーマ】

- 地域の創意工夫ある取組の充実・事業主体の体制強化
- 宿泊につながるナイトタイム(夜間・早朝)コンテンツの充実
- 観光消費による地域経済への波及

【ポイント】

- 旅行者に選ばれる地域とするためには、**その地域でしか体験できない観光コンテンツの創出と、コンテンツを作り上げる地域の体制を強化**することが必要
- 多様な旅行者ニーズに訴求するため、モニターツアー等を行うことで評価検証を実施し、**更なるブラッシュアップ**につなげる。
- **観光消費が地域にお金が落ちる仕組みづくり**を行う。

地域の創意工夫ある取組の充実

【事業主体】

- ①市町村、②県(地方振興事務所・地域事務所)

【事業内容】

- ①滞在時間の長期化につながるコンテンツや着地型商品の造成等(左記市町村の取組への財政支援)
- ②圏域ごとの課題解決に向けた県事務所独自の取組強化

インバウンド向け観光コンテンツ磨き上げ

【事業主体】

- 県(観光戦略課)

【事業内容】

- ・欧米豪等現地旅行会社やオンライン旅行会社を対象としたモニターツアーの実施を通じ、観光コンテンツの評価検証、マーケットインによるコンテンツの磨き上げの展開
- ・上記を基に旅行商品として旅行会社等への更なる売り込み



宮城を訪れたくなる観光コンテンツ

観光地域づくりの担い手体制強化

【事業主体】

- DMO(観光地域づくり法人)、観光協会などの観光地域づくりに関わる団体

【事業内容】

以下の取組に対する財政支援

- ①観光コンテンツ造成・旅行商品販売
地域に眠る観光資源の発掘や既存の観光資源の磨き上げ、旅行商品の企画・開発、集客イベントの企画・実施、着地型旅行商品の企画・造成 等
- ②組織の体制強化
新規事業実施に向けた体制強化として外部人材の活用や専門家派遣 等

施策1 戦略的な観光地域づくり②

【重点テーマ】

- 地域の創意工夫ある取組の充実・事業主体の体制強化
- 宿泊につながるナイトタイム(夜間・早朝)コンテンツの充実
- 観光消費による地域経済への波及

【ポイント】

- 旅行者に選ばれる地域とするためには、**その地域でしか体験できない観光コンテンツの創出と、コンテンツを作り上げる地域の体制を強化**することが必要
- 多様な旅行者ニーズに訴求するため、モニターツアー等を行うことで評価検証を実施し、**更なるブラッシュアップ**につなげる。
- **観光消費が地域にお金が落ちる仕組みづくり**を行う。



地域商店街でのナイトタイムイベント



地域食材を活用した
インバウンド向けメニュー

観光を軸に地域が活性化



林業体験ツアー



漁業体験ツアー



ネタもシャリも全て宮城産

地域経済の好循環を促す仕組みの構築①

【事業主体】

一次産業事業者、飲食店、宿泊施設

【事業内容】

地域に根付く食材や食文化、農林漁業等の生業を活用した観光コンテンツの造成、磨き上げを行う事業者への支援

<磨き上げ例>

「食」

- ・地域食材を活用したインバウンド向け新たな食メニューの開発
(ヴィーガン、ハラル、グルテンフリー等)と旅行商品として旅行会社等への売り込み

「農林水産業体験」

- ・地域の自然や歴史、文化を活かしたインバウンド向け体験型プログラムの旅行商品化

地域経済の好循環を促す仕組みの構築②

【事業主体】

地域の商工関係団体

【事業内容】

- 地域商店街等への交流人口呼び込みに向けた取組支援
- ・ここでしか買えない魅力ある地域土産の開発
- ・インバウンド向け商店街内での旅行商品の造成、磨き上げ
- ・宿泊、長期滞在につながるコンテンツの造成、磨き上げ
- ・上記を基に旅行商品として売り込み

観光需要取り込みに向けた環境整備

【事業主体】

地域の商工関係団体

【事業内容】

- ・インバウンド向け商店街デジタルマップの作成
- ・地図アプリ表示の多言語対応

施策2 周遊性向上のための三次交通対策

【重点テーマ】

- 空港や最寄り駅など交通拠点からの交通手段、観光地内を周遊する交通手段の確保
- 二次交通の情報発信の充実

【ポイント】

- 仙台空港から県内各地への送客強化を図り、県内滞在時間の増加を図る。
- 観光地における移動の利便性向上により、訪問意欲の向上や観光地での滞在時間の増加を図る。

仙台から他圏域へ・圏域間の周遊促進



観光地内・観光地間の周遊促進

【事業主体】

県(観光戦略課・地方振興事務所・地域事務所)・
交通関係事業者・観光地域づくり団体

【事業内容】

多様な移動手段を確保し、観光地での移動に係る利便性向上を図る。

<周遊促進パッケージ策(例)>

- ・広域周遊バスツアー造成
- ・レンタカー利用促進
- ・レンタサイクル、電動キックボードの設置促進
- ・二次交通最適化(域内交通事業者間連携、オンデマンド交通、既存路線等の有効活用など圏域内での最適な交通手段を検証)

インバウンド交通環境整備促進

【事業主体】

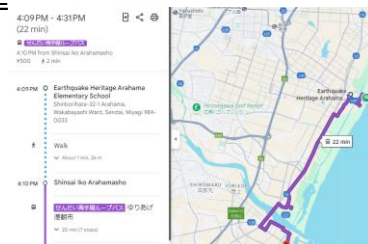
県(観光戦略課)

【事業内容】

公共交通情報の整備やWeb上の地図アプリの多言語対応を行うなど、旅行者の移動手段の円滑や満足度向上を図る。

<取組例>

- ・コミュニティバス等の路線情報のデータベース化促進
- ・Web上の地図アプリの多言語対応促進



施策3 快適な旅行環境のための受入環境整備

【重点テーマ】

- 宿泊人材確保に向けたマッチング支援やスキルアップ支援
- 効率的・持続的経営支援
- 観光案内ガイドの育成・確保
- インバウンド向けの観光案内の充実

【ポイント】

- 宿泊業の人手不足解消やおもてなし力の向上を図るとともに、観光案内の充実など**観光人財面での強化**を図る。
- 多様な旅行者に快適な旅行環境を提供するために、**設備面での機能強化**を図る。



また来たいと思える観光地



観光ガイド機能強化

【事業主体】

県(観光戦略課)

【事業内容】

移動手段の担い手となりうるガイドドライバーや、特定の地域における訪問者の体験価値向上のため当該地域について精通してガイドを行うローカルガイドの育成を計画的に行い、受入環境の充実を図る。

宿泊業体制強化支援

【事業主体】

県(観光戦略課)

【事業内容】

- ・人材確保・定着支援(宿泊事業者と学生等求職者をマッチング、外国人を含む従業員の業務能力・おもてなしスキルの向上支援)
- ・持続可能な経営支援(DX化・アウトソーシング導入支援)

インバウンド受入拡大支援

【事業主体】

県(観光戦略課)

【事業内容】

- ・インバウンド市場がもたらす地域への誘客効果や地域での受入対応等に係るセミナー・個別相談会の実施【機運醸成】
- ・上記踏まえた優良事例の横展開、必要な支援策検討【発展】

自然公園施設等受入環境整備充実

【事業主体】

県(観光戦略課)

【事業内容】

インバウンド向け旅行者の誘客拡大と満足度向上に向け、レストハウス等のWi-Fi整備や機能強化のほか、観光案内板の多言語化(ピクトグラム等)を行う。

施策4 効果的なプロモーションの展開

【重点テーマ】

- 新規市場開拓に向けた宮城県への認知度向上
- SNS等を有効活用したデジタルプロモーションの推進

【ポイント】

- **欧米豪からの認知度向上**に向け、宮城・東北が一体となった観光プロモーションを展開
- **東アジア市場**については、仙台空港国際線定期便がある地の利を生かし、**富裕層の誘客・リピーター化**を促進



宮城の魅力を発信

新規市場（欧米豪）向けプロモーション

【事業主体】

県（観光戦略課）

【事業内容】

・東北各県と連携し現地旅行会社招請を行うとともに、現地旅行会社等とのネットワーク構築により、本県の魅力発信を効果的に行う。

・個人旅行（FIT）層の誘客拡大に向け、オンライン旅行会社向けのプロモーションを強化するとともに、SNSを積極的に活用したデジタルプロモーションを展開



既存市場（東アジア）向けプロモーション

【事業主体】

県（観光戦略課）

【事業内容】

・食、サイクリング、ゴルフ、スキー、トレッキング等の特定の目的に特化した旅行ニーズに対するプロモーションの展開

・海外SNSやインフルエンサーを活用したデジタルプロモーションの強化



5. 仙台圏域での施策活用イメージ

施策1 戦略的な観光地域づくり

現状・課題

第1回部会振り返り

- 観光資源が圏域内に点在している一方、それらをつなげて滞在や宿泊につなげる仕組みが十分でない。
- 宿泊税は観光目的以外の宿泊者(例:ビジネス利用等)からも徴収されるが、こうした層への観光情報提供が不足しており、地域内での観光消費につなげっていない。

第6期みやぎ観光戦略プラン 仙台圏域の施策の方向性:東北・宮城のゲートウェイ機能を活かした周遊性に優れた観光地づくり



食・酒・文化・アニメなど地域特性を活かした体験型観光やナイトコンテンツ、シンボリックな素材を磨き上げ、テーマ性とストーリー性を持たせた宿泊型観光ルートを造成し、宿泊者数の拡大を図る。

充実させたいコンテンツ例

食と酒をテーマとしたツーリズム



地域の食と酒のマリアージュをテーマにし、圏域内の酒蔵ごとに食と組み合わせた観光ツアーを造成する。タクシーやハイヤーなども活用した富裕層向けプライベートツアーも企画。

例)塩竈の寿司体験&浦霞酒蔵見学ツアー。

ナイトイベント、朝の自然体験など 時間帯別コンテンツ



松島町の熱気球体験や仙台市のルミナクトのように通年を通して、実施できる体験コンテンツやイベント造成する。

例)大和町七ツ森湖畔での星空体験ツアー。

観光目的以外の宿泊者も対象とした「地域情報ミニガイド」+地域内消費の促進



ビジネス・スポーツ等の観光目的以外の宿泊者も、アプローチできるように観光・飲食情報をまとめたQRコード付きミニガイドを施設に設置。地域内消費を促進する方策を検討。(例:地域で使えるクーポンの配布等)

5. 仙台圏域での施策活用イメージ

施策2 周遊性向上のための二次交通対策

現状・課題

第1回部会振り返り

- 公共交通機関ではアクセスしづらい観光地が多く、地域の特性に応じた交通支援の導入が必要。
- 過去の送客取組（例：松島地区の宿泊施設による循環バスなど）では、運営コストや関係者間の調整が課題となり、持続性の確保が課題。

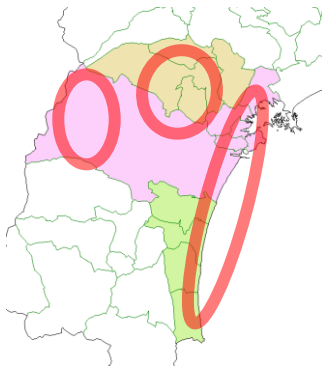
第6期みやぎ観光戦略プラン 仙台圏域の施策の方向性：東北・宮城のゲートウェイ機能を活かした周遊性に優れた観光地づくり



海上交通の活用や駅から観光地へのアクセス改善など、多様なアプローチにより、面的な周遊性を高めることが有効である。

移動手段の充実に向けた取組例

エリアごとの二次交通支援



地域特性に応じた交通手段を導入・支援する取組。
例)・沿岸部
→バス周遊運行、海上交通
・仙台西部(秋保、作並)
→宿泊送迎バス
・内陸部(黒川郡)
→交通デマンドタクシー

レンタカー事業者との事業連携



駅や空港発のレンタカー利用者を対象に、域内スタンプラリーやドライブ観光マップなどの周遊企画と組み合わせて利用料金を補助し、圏域内での滞在延長と観光消費の拡大を図る。

(1) 観光客入込数

仙台圏域の入込数は、東北絆まつり（前年比+57万人）、松島海岸（前年比+18万人）などの増加により、対前年比4%増加の4,073万人
(単位: 万人)

	H31 (R1)	R5	R6	H31(R1)年比	R5年比
仙南圏域	718	670	708	98.6%	105.7%
仙台圏域	3,679	3,936	4,073	110.7%	103.5%
大崎圏域	941	809	847	90.0%	104.7%
栗原圏域	190	166	177	93.2%	106.6%
登米圏域	347	281	293	84.4%	104.3%
石巻圏域	550	637	639	116.2%	100.3%
気仙沼・本吉圏域	371	324	314	84.6%	96.9%
県全体	6,796	6,824	7,051	103.8%	103.3%

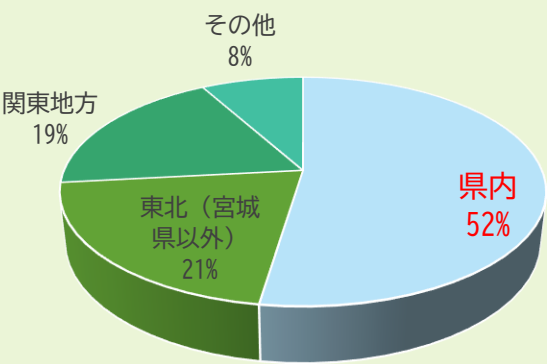
(2) 宿泊観光客数 【出典】宮城県観光統計概要(R6速報値)

仙台圏域の宿泊観光客数は、前年比6%増加の約770万人泊
(単位: 万人泊)

	H31 (R1)	R5	R6	H31(R1)年比	R5年比
仙南圏域	71	63	63	88.7%	100.0%
仙台圏域	742	727	770	103.8%	105.9%
大崎圏域	77	54	58	75.3%	107.4%
栗原圏域	11	9	9	81.8%	100.0%
登米圏域	9	8	9	100.0%	112.5%
石巻圏域	38	42	38	100.0%	90.5%
気仙沼・本吉圏域	42	40	42	100.0%	105.0%
県全体	989	943	988	99.9%	104.8%

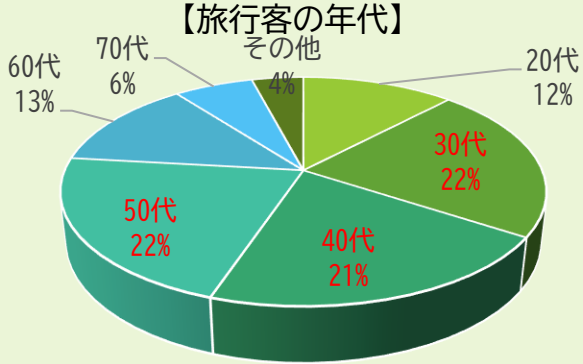
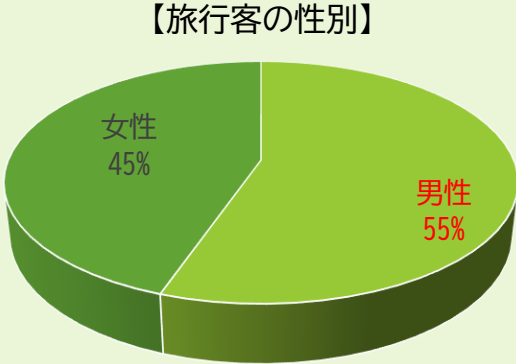
(3) 旅行者の居住地エリア

宮城県を含む東北地方が73%を占める一方、関東圏からの来客も多い。



(4) 旅行者の性別・年代 【出典】令和6年度観光客実態調査

男性が55%を占め、年代別では30代 (22%)、50代 (22%)、40代 (21%) の割合が高い。



6. 御意見を頂戴したいこと

1. 宿泊税活用施策案について（P28～33）

○施策1～4（P29～33）で優先順位が高い施策は何ですか？

（例：圏域として、まずは●●などの二次交通の充実が必要、誘客を促進するうえで、●●などの更なるプロモーションが必要 等）

○施策案の中で、具体的な活用策について御意見はありますか？

（例：DX化に向けたセミナーについては、経営者向け、実務者向けなど階層ごとに分けた研修を実施して欲しい。 等）

2. 圏域での施策活用イメージについて（P34、35）

（1）施策1

○圏域で磨き上げていきたい観光資源・コンテンツは何ですか？

（例：集客力のあるコンテンツ、閑散期対策に繋がるコンテンツ、宿泊に繋がるナイトタイムコンテンツ 等）

（2）施策2

○観光地への誘客拡大に向けて、必要とする移動手段や支援策は何ですか？

（例：交通手段、ルート、時期 等）

6. 御意見を頂戴したいこと

以下の3つの視点も参考に御意見をお願いします。

- 【視点①】地域の観光業が抱える課題への対応・地域の魅力創出に向けた施策など“地域”視点での検討に加え、隣接圏域等との連携による“広域周遊”の視点を踏まえ施策を検討
- 【視点②】宿泊税を納める“納税者(宿泊者)”の視点で有益な使い途施策を検討
- 【視点③】“地域経済活性化”の視点で、滞在時間が長く、消費額単価が高いインバウンドや宿泊観光客の増加に向けた施策や高付加価値化に向けた施策を検討